

事業報告書（令和7年度）

事業名 桃太郎の願い～川の清掃と共に楽しむ環境学習プロジェクト

団体名 桃環プロジェクト 担当者名 戸倉 裕子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

【ワークショップ①「夏の生きもの発見×ごみウォッチング～西川で学ぼう！」】

日時：2025/8/3（日）10時～12時 場所：西川緑道公園・西川アイプラザ会議室2

講師：（公財）岡山県環境保全事業団 山田哲弘氏

参加者：子ども8人、大人8人 計16人 スタッフ11人（講師含む）

内容：西川緑道公園の散策をし、身近な自然観察及び西川用水路を流れてくるごみの観察と回収を行った。屋内に戻り、散策の発見を共有し、地球環境のお話と今日からできるプラスチック削減活動について学んだ。プラスチックリサイクルクイズを行った。アンケート1回目を実施。

写真1 西川でごみ発見



写真2 ごみを回収



写真3 自然観察



写真4 川の生きもの観察



写真5 化石を観察



写真6 地球環境のお話



写真7 プラスチックリサイクルクイズ



(様式第8号)

【ワークショップ②「たんけんで発見！絵本で学ぶ！」】

日時：2025/8/7（木）10時～12時 場所：西川緑道公園・西川アイプラザ会議室2

講師：フリーアナウンサー 坂本美香氏 （公財）岡山県環境保全事業団 山田哲弘氏

参加者：子ども（5歳児）21人、大人4人 計25人 スタッフ9人（講師含む）

内容：西川緑道公園の散策をし、身近な自然観察及び西川用水路を流れてくるごみの観察と回収を行った。室内に戻り、西川緑道公園散策で見つけたもの発見したことの共有をし、絵本『もったいないばあさんかわをゆく』『海をたすけるももたろう』の読み聞かせを行った。絵本の読み聞かせの後、ごみはどうやったら減るのか、どんな川にしたいか等意見を出し合った。

写真8 川ごみ回収



写真9 川の生きもの観察



写真10 感触を確かめる



写真11 今日発見したことの共有



写真12 絵本『もったいないばあさんかわをゆく』



写真13 『海をたすけるももたろう』



【ワークショップ③「白桃そっくり！もも笛アート体験」】

日時：2025/8/30（土）13時～15時 場所：西川アイプラザ会議室1・2

講師：オカリナ作家・演奏家 軽部りつこ 宮本幸子 守安絵里

（公財）岡山県環境保全事業団 山田哲弘氏

参加者：子ども13人、大人1人 同伴者11人 計25人 スタッフ10人（講師含む）

内容：もも笛絵付け、オカリナ演奏 桃太郎の桃が流れてきたといわれる笹ヶ瀬川クリーン作戦の様子、ワークショップ①②の様子を伝え、桃環プロジェクトの活動を紹介した。絵付けをしたもも笛で『桃太郎』のメロディーを吹く練習をし、合奏した。参加者がイベント後に絵付けをしたもも笛を誰かに見せたり、演奏したりすることで参加者自身が環境問題を伝え、解決策を伝える人になることを目指す。同伴者を含め時間のある時に、机に設置したプラスチックリサイクルクイズを行い、ごみの分別への理解を深めた。アンケート1回目を実施。

写真14 もも笛絵付け説明



写真15 各自絵付け中の様子



写真16 絵付け例



写真17 もも笛練習の様子



写真18 全員合奏の記念撮影



写真19 桃環プロジェクトの活動紹介をしている所

右側壁沿いにはプラスチックリサイクルクイズの展示



2. ESD の視点
①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
本事業を通じて、参加者は身近な環境問題を「自分ごと」として捉える意識の変化が見られました。アンケートでは「ごみの分別を心掛けるようになった」「日々悩んでいたプラスチック資源の分別を学ぶことができた」といった回答がありました。また、「道に落ちているごみを、川に落ちる前に拾うようになった」という具体的な行動の変化も確認され、日常生活の中での実践につながったことが分かりました。
②どのように学び合いを取り入れたか
本事業では、講師からの一方的な知識提供にとどまらず、参加者同士や家庭内での学び合いを重視しました。アンケートには「家に帰って、ワークショップで学んだことを家族で話し合った」という声が寄せられており、学んだ内容が家庭全体に共有されることで、世代を超えた学び合いが実現しました。こうした双方向の学び合いは、持続可能なライフスタイルの定着に寄与すると考えられます。
③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
ワークショップでは、単なる知識習得にとどまらず、学びを日常生活に結びつける工夫を行いました。例えば、もも笛絵付けワークショップでは、子どもたちが絵付けしたもも笛を手取るたびに、桃太郎の川である笹ヶ瀬川のごみ問題を思い出し、自分に関係がないと思いがちな川ごみやプラスチックとの付き合い方について考えるきっかけとなるようにしました。このように、地域文化と体験を融合させることで、学びが継続的な行動変容につながる仕組みを意識しました。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
桃環プロジェクトでは、参加者の意識変容と行動変容の両方を測定するため、アンケートを「当日」と「一か月後」の 2 回実施する独自の手法を採用しています。 当日のアンケートで「〇〇に取り組んでみたい」と答えた参加者が、1 か月後には「実際に行動した」と回答するケースを把握でき、イベントが実際の行動につながったかどうか検証できる点が特徴です。 これにより、事業の目的である「学びと日常生活の行動変容の結びつき」がどの程度達成されたかを把握し、次年度以降の事業改善につなげていきます。
4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）
事業を実施した結果、一定の行動変容が見られた一方で、参加者の継続的な取り組みを支える仕組みづくりの必要性も感じました。今後は、地域文化や協働を活かした学びの場を重ねることで、学びと実践を長期的に結びつけていきます。継続的な活動とネットワークの強化により、岡山発の持続可能な地域モデルを構築し、他地域へと広げていきたいと考えています。 意識変容と行動変容の両方を把握するため当日および 1 か月後に実施しているアンケートにおいては 2 回目の回答率向上を図るための方策検討が今後の課題です。

本事業では、参加者アンケートを当日と1か月後の2回実施し、意識変容と行動変容の両面から成果を確認しました。アンケートの回答率は1回目97%（全参加者41名中40名）、2回目24%（10名）※1回目は参加者の親子それぞれに回答してもらっているが、2回目はGoogleフォームでの回答の為家族で1つの回答になっていることもあり減少する。

1回目（当日）のアンケートでは、参加者の多くが「マイボトルを持つ」「分別を徹底する」「ごみを持ち帰りリサイクルへ回す」などの行動を「取り組んでみたい」と回答し、環境問題を自分ごととして捉える意識の高まりが見られました。

2回目（1か月後）のアンケートでは、実際の行動につながったかどうかを確認しました。

その結果、特に注目する点として、

「マイボトルを持つ」：当日85%が「取り組んでみたい」と回答 → 1か月後には100%が「実行した（継続している）」と回答

「分別を徹底する」：当日60%が「取り組んでみたい」と回答 → 1か月後には90%が「実行した（継続している）」と回答

「ごみを持ち帰りリサイクルへ回す」：当日40% → 1か月後50%

「落ちているごみを拾う」：当日33% → 1か月後40%

「容器・包装を見直す」：当日18% → 1か月後40%

というように、学びが日常生活に定着していることが確認できました。

自由記載から一部紹介すると、

・今まで悩んでいたプラごみの分別について得た知識を家族にも伝え、気をつけて、分別するようになった

・子供に普段のゴミの分別を伝えました

・水筒をこまめに使う

・できるだけ落ちているゴミを拾う

参加者が実際に行動していることがうかがえます。

以上の結果から、本事業は「学びを行動につなげる」という目的を達成し、参加者の意識変容と行動変容を実現できたと考えます。今後は、この成果を継続的に高めるために、家庭や学校など日常生活における実践をさらに支援していく必要があります。